



## 「暖房器具火災」を防ぎましょう!

暖房器具は寒い北海道での生活に欠かせないものですが、ちょっとした不注意などから火災が発生してしまいます。

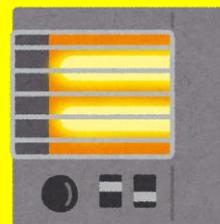
北海道内の家庭で使用されている暖房器具は灯油ストーブが最も多く、火災件数も多い傾向にあります。次いで使用割合の高い電気ストーブの火災件数も、少なくありません。

火災が起こりづらいつらいつらと思われがちな電気ストーブや電気こたつは、就寝中に使用したり、周囲に燃えやすいものがあったとしても油断する傾向にあります。しかし、実際には衣服や布団がヒーターに接触することなどによって着火し、重大な火災を引き起こしているのです。

暖房器具火災を防ぐために、必ず守って欲しい基本的な対策を以下にまとめましたので、参考にしてください。

### 【暖房器具】

- 外出・寝る前には、なるべく消す。
- 燃えやすい物は近くに置かない。
- ストーブの上に洗濯物を干さない。



### 【家電製品共通】

- 使わないときはコンセントを抜く。
- 電源プラグやコードが傷んでいたら使用しない。
- 使用前に取扱説明書をよく読む。
- リコール対象製品でないか確認する。



暖房器具の中で安全性が高いのはエアコンです。ストーブの使用に不安がある場合は、できるだけエアコン暖房を使用し、ストーブは目の届く範囲での使用に留めましょう。

# 停電時の発電機によるCO中毒や、復旧後の通電火災に注意！

近年、災害による停電の長期化に備え、非常電源として携帯発電機をお持ちの家庭が増えています。しかし、携帯発電機の排ガスには毒性の強い一酸化炭素（CO）が含まれており、屋内や風通しの悪い場所での使用による死亡事故も、全国で報告されています。

さらに、停電復旧後の通電により、電熱器具が可燃物に接触していたことによる火災や、災害による雨漏りや浸水等で家電製品の内部に水が入ってショートし、漏電火災となる場合もありますので、注意が必要です。



## 【携帯発電機使用時の注意】

○屋内では絶対に使用しないでください。一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

○屋外であっても、自動車内やテント内で使用すると屋内と同等以上の危険性があります。排ガスが逆流しないように入出口・窓等の開口部から離れたところ、かつ、風通しの良いところで使用してください。



## 中標津消防署の電話での災害案内が終了しました

電話で中標津の火災や救助が発生しているかを確認できるテレホンサービスの**災害案内（0153-72-1144）が2023年12月31日をもって終了しました。**災害状況を確認したいときは中標津消防署ホームページ内の「火災・救助情報」をご利用してください。